

第2回足立区自転車活用推進計画策定委員会

次 第

日時：令和6年1月10日（水） 午前10時から
場所：足立区役所8階特別会議室（災害対策本部室）

- 1 開会
- 2 足立区都市建設部長挨拶
- 3 資料説明
- 4 質疑
- 5 事務局からのお知らせ
- 6 閉会

次 回

第3回足立区自転車活用推進計画策定委員会

令和6年3月28日（木） 足立区役所にて予定しております。

令和6年1月10日（水） 午前10時
足立区役所8階 特別会議室（災害対策本部室）

第2回足立区自転車活用推進計画策定委員会資料

- 1 第1回自転車活用推進計画策定委員会次第
- 2 足立区自転車活用推進計画策定委員会名簿
- 3 足立区自転車活用推進計画（第2回委員会資料）
- 4 自転車ネットワーク計画編（第2回委員会資料）
- 5 第1回策定員会での意見の反映状況（席上配布）
- 6 自転車ネットワーク計画 補足資料（席上配布）

足立区自転車活用推進計画策定委員会名簿（敬称略）

	区分	団体名	役職	氏名
1	学識経験者	流通経済大学	教授	板谷 和也
2	鉄道事業者	東日本旅客鉄道株式会社	首都圏本部経営戦略ユニット マネージャー	松本 剛
3		首都圏新都市鉄道株式会社	経営企画部推進役兼経営戦略課課長 (地域政策担当)	島貫 浩
4		東京地下鉄株式会社	開発連携・工事調整担当課長	廣元 勝志
5		東武鉄道株式会社	東武北千住駅管区長	大根田 文雄
6		京成電鉄株式会社	計画管理部 課長	山下 知晃
7		東京都交通局電車部	電車部事業戦略担当課長	与田 伸子
8	バス事業者	一般社団法人東京バス協会	乗合業務部長	米澤 暁裕
9	交通管理者	警視庁千住警察署	交通課長	久松 保文
10		警視庁西新井警察署	交通課長	北上 達也
11		警視庁竹の塚警察署	交通課長	長岡 孝浩
12		警視庁綾瀬警察署	交通課長	蝦名 正一
13	道路管理者	国土交通省関東地方整備局 東京国道事務所	交通対策課長	関 肖
14		東京都建設局第六建設事務所	補修課長	吉澤 一之
15	自転車関連事業者	OpenStreet株式会社	プラットフォーム統括エリア開発部長	本間 晃章
16	区内関係団体	足立区友愛クラブ連合会	副会長	下川 英季
17		足立区商店街振興組合連合会	理事長	鈴木 健嗣
18		小学校PTA連合会		村上 和生
19		足立区障害者団体連合会	事務局長	金子 孝一郎
20		足立区観光交流協会	事務局長	坂田 光穂
21		足立区まちづくり推進委員会		上野 剛
22	区職員	都市建設部	部長	真鍋 兼
23		道路公園整備室	室長	吉原 治幸
24		危機管理部	部長	茂木 聡直
25		環境部	部長	荒井 広幸
26		教育指導部	部長	岩松 朋子
27	事務局	駐輪場対策担当課	課長	須藤 純二
28		交通対策課	課長	長澤 友也
29		交通対策課	駐車場推進係係長	松平 匡人
30		交通対策課	駐車場推進係主査	高村 一幸
31		交通対策課	駐車場推進係主任	前田 勝也

第1回策定員会での意見の反映状況

自転車活用推進計画

意見	ページ	反映状況
中高生は自転車の並走などよく見かけるため学生時代に教育すべきである。	P28	学校等での交通安全教室を実施する施策を記載した。
高齢者向けに住区センターなどで交通安全教室を実施するのが良いのではないか。	P29	住区センターでの高齢者や子育てサロンにおける子育て世代への交通安全講話などを実施する施策を記載した。
こどもと保護者が一緒に交通ルールを学べると良いのではないか。		
スピードが出ることがないタイプの電動自転車が歩道を走行している。取締りをしてほしい。	P30	危険性の高い自転車利用者への違反に対して取締りをおこなう施策を記載した。
視覚障がい者にとって歩道を早いスピードで走る自転車は危険である。マナーを守ってほしい。	P34	自転車マナーの周知啓発を実施する施策を記載した
アンケート調査結果について、年代別での分析をするべき。	P82	各設問について、年代別でのクロス集計をおこない各年代での傾向を把握した。

自転車ネットワーク計画編

意見	ページ	反映状況
自転車ネットワーク計画編(第1回資料P15) 図7が見えづらい。	P16	見やすいように修正 第2回資料(P16 図3. 6)
ネットワーク路線の整備後にしっかりと自転車利用者が利用できるように、各地域の状況を把握してネットワーク路線の実現性を検討してほしい。	P23	モデル路線(環七北通り)を定めて、各整備形態での整備効果を検証していく。
より安心して自転車を利用できるように自転車専用道路を整備すべき。	P25	各整備形態(自転車道路、自転車専用通行帯、車道混在)を道路状況に応じて選定し整備する。
幹線だけではなく支線の自転車通行にも配慮が必要である。ゾーン30やゾーン30プラス(狭窄、ハンブ)などを組み合わせることにより自転車の走行環境を向上することができる。	—	今後必要に応じて、反映させていく。